〔大宜見洋文議員 登壇〕

〔大宜見洋文議員より「休憩願います」の声あり〕

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩（午前11時36分）

再開（午前11時38分）

○議長 宮城清政君 再開します。4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 それでは4番大宜見洋文、通告書に従い、6つの質問を読み上げて答弁をいただき、再質問から一問一答で進めさせていただきます。

質問1、学校にも地域でもひとりぼっちのいないまちを目指すためにどう取り組むか。

（1）本町教育委員会はインクルーシブ教育とはどういう意味と捉えているか。（2）本町小中学校ではインクルーシブ教育にどう取り組んでいるか。

質問2、少人数学級の実現を目指すために。（1）少人数学級の効果・必要性は分析しているか。（2）本町で少人数学級を実現するためには何が必要か。

質問3、4つの児童館の利用拡充の計画はあるか。（1）調理設備などを整備して夜まで利用可能にする方針だったと思うが、次年度から実現するか。（2）区・自治会から自治公民館を学習支援や居場所として活用したいとの要望も聞くが、どう住み分けるか。

質問4、町社会福祉協議会の事業を問う。（1）1年前の一般質問で、コミュニティーソーシャルワーカーのアウトリーチで発見され、支援が始まり相談件数が1,000件にのぼったとの報告があったが、その後の状況はどうか。（2）日常的な金銭管理事業の状況はどうか。

質問5、町民の健康維持へのインセンティブ施策は。（1）健康維持へのインセンティブ施策は考えているか。（2）商工会を中心に町内大手スーパーや会員企業で使えるポイント制度を検討してはどうか。

質問6、農福連携について。（1）本町での農福連携の動きはあるか。（2）農福連携の先進事例で自然栽培と福祉との連携が全国で広がっているが、その理由や動向について調査しているか。以上、よろしく願います。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 それでは質問事項1、学校にも地域でもひとりぼっちのいないまちを目指すためにはどう取り組むかの（1）インクルーシブ教育とは、子供たち一人一人が多様であることを前提に、障害の有無にかかわらず、誰もが望めば自分に合った配慮を受けながら、同じ場所でもともに学べる仕組みであります。つまり、一人一人丁寧にとみんなで一緒に学ぶことを両立し、さらに自立と社会参加を見据えて、本人にとって望ましい学びの場を選択できるように多様な学びの場を用意する教育理念だと認識しております。（2）特別支援学級に通う児童生徒に対して、交流学級を指定し普通学級においてみんなとともに授業を受けるなどの取り組みを行っております。また、特別に支援が必要な児童生徒に対して、特別支援教育支援員の配置や全ての小中学校にエレベーターの設置を行うなどの取り組みを行っております。

質問事項2、少人数学級の実現を目指すための（1）少人数学級の効果・必要性については学校からのアンケート結果により、児童の実態が把握しやすく、学習において具体的な操作活動や体験的な活動などにおいて個別指導が充実した、ノート指導や作文指導、机間指導などきめ細かく指導することができた、きめ細やかな相談体制により生徒理解が深まった、発表の機会がふえたなどの評価があると認識しております。（2）文部科学省の学級編成規準は、小学1年生35名、2年生から中学3年生までは40名編成となります。また、県の費用負担により小学1、2年生は30名、小学3年生から5年生までは35名、平成30年度より小学6年生も現行40名から35名へ、中学1年生35名と少人数学級編成を実施しております。なお、それ以上の少人数学級編成を実現するためには、教室の増築、教員の確保、財源の確保が必要となります。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項3点目の4つの児童館の利用拡充の計画はあるか。

（1）についてお答えします。児童館の夜の活用については、県内事例の調査を終え、平成31年度の実施に向けて検討を始めております。（2）についてお答えします。現在、字、自治会から公民館等を活用したいとの要望は、まだ町には届けられておりません。町としましては、まず児童館の活用から検討してまいります。

質問事項4点目の町社会福祉協議会の事業を問う。（1）についてお答えします。町社協では、平成28年度から小学校区に2人ずつコミュニティーソーシャルワーカーを配置し

3月26日（第7号）一般質問

ております。平成28年度の相談支援件数は7,706件で、1人当たりの相談支援件数は約1,000件でした。平成29年度は2月末現在で8,800件となっています。（2）についてお答えします。日常的金銭管理支援事業につきましては、平成28年度が23件、平成29年度が2月末現在で29件となっています。

質問事項5点目の町民の健康維持へのインセンティブ施策は。（1）についてお答えします。国保加入者の特定健診受診率向上対策として特定健診受診者にTポイントを付与するインセンティブ付与事業の開始を予定しています。（2）についてお答えします。新年度に国保加入者の特定健診受診者を対象にTポイントの付与によるインセンティブ付与事業を予定していますが、さらに町全体的な健康増進事業について検討をしてみたいと思います。

質問事項6点目、農福連携について。（1）についてお答えします。町内で農福連携を活用した事業の実施は、現在確認できておりません。平成30年3月2日の農福連携対策の公募要項説明会に町内の福祉事務所てるしのワークセンターが参加したことを確認しています。（2）についてお答えします。農福連携で自然栽培を行った事例をメディアやインターネット等で農福連携の情報収集をしたことはありますが、ご質問の趣旨の調査等は行っておりません。以上です。

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩（午前11時46分）

再開（午後1時00分）

○議長 宮城清政君 再開します。

それでは午前に引き続き、大宜見洋文議員の一般質問から行います。4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 それでは再質問、1番から、とりあえず一問一答の形をとって、途中で一括しての場合もありますのでよろしくお願いいたします。

まず、1の学校にも地域にもひとりぼっちのいないまちを目指すためにですが、社会での差別や偏見をなくして、障害のあるなしにかかわらず、障害も個性と捉え、多様性、凸凹な個性たちがともに認め合い、支え合う環境をつくるためには、小さいころからそういう環境で学び、ともに育つことが一番大切だということを『みんなの学校』という映画から学びました。そのことを踏まえての質問になりました。まず（1）への答弁から、誰もが望めばの条件が気になっています。望まない子もいると、本町教育委員会は認識しているのか、本来ならば、全員にそういう対応をしなければ逃げていく言い訳をつくっているような感じがしまして、ちょっと気になりますが、いかがでしょうか。

○議長 宮城清政君 学校教育課長。

○学校教育課長 野原 学君 誰もが望めばという表現ですが、教育支援委員会というのがございまして、まずそこで、その委員会でこの子に適した就学先をまず判定するという意味でございまして。その後また判定された保護者などの意見なども踏まえまして、最終的にその子の就学先が決定するということとございまして。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 今の状況でなかなか望まない子もいるのかなという気はしますけれども、これから育った後に社会に出てはそういう逃げる場所もなくなってしまうと。できれば皆さん同じように教育する、育つほうが適正な教育が望めるんじゃないかということで、とりあえずここは気になりましたので、今後、そういう誰もが望めばという言葉がなくなるような環境が整うことを期待します。

次に質問（2）です。まず、その課題ですね、例えば今の取り組みはわかったんですけども、じゃあ現状での課題があるかどうかお願いします。

○議長 宮城清政君 学校教育課長。

○学校教育課長 野原 学君 課題といたしまして、教師の指導力向上、それから授業改善が課題だと認識しております。それからインクルーシブ教育については、子供一人一人に対応した適切なサポートが必要であり、人材確保が課題であるとも考えております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 その課題に向けて解決する施策としてはどのようなものがありますか。

○議長 宮城清政君 学校教育課長。

○学校教育課長 野原 学君 主に人材確保については、特別教育支援員の人材確保だと考えております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 現在、その支援員の数には十分に満たされているのかどうか、お願

いします。

○議長 宮城清政君 学校教育課長。

○学校教育課長 野原 学君 平成29年度については満たされております。それから平成30年度に向けてであります、現在募集中、6名不足している状況でございます。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 平成29年度は満たされているということで、とりあえず現状では6名不足、多分見つかるのかなという感じもしますが、よろしくお願ひします。それで今回、社協主催でやっと南風原町内でも『みんなの学校』の上映会が先月の18日でしたか、行われました。そこで本町の職員の方々も見に来られて大変心強かったんですけども、教育委員会からも何名か来られたと思います。野原課長も見られていましたが、いかがでしたでしょうか。感想を一言お願ひします。

○議長 宮城清政君 学校教育課長。

○学校教育課長 野原 学君 上映内容の感想は、その上映された学校については非常に校長を筆頭に一生懸命、インクルーシブ教育に取り組んでいるという感想でございます。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 その映画の、南風原町でも行わないかということで教育委員会に、できれば主催でできないかという、前にこういう質問をしました。以前の答弁では、教育委員会では学校からの希望がないと上映会はなかなか難しいという答弁だったと思いますが、それで間違いないでしょうか。

○議長 宮城清政君 学校教育課長。

○学校教育課長 野原 学君 間違いはございません。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 私が最初に、この映画を見たのは、糸満市で上映されたときです。そのときの上映会の主催が教育委員会だったと思います。本町でできない理由は何かあるのでしょうか、教えてください。

○議長 宮城清政君 学校教育課長。

○学校教育課長 野原 学君 インクルーシブ教育の充実については、学校の規模あるいはその内容など、いろいろな充実の方策があるものと考えております。学校のほうはどういった対応をとるか、教育委員会としては学校のほうにもいろいろ意見を聞きながら進めていきたいという認識でございます。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 社協主催で何とか1回目できましたこの『みんなの学校』の上映会ですけれども、この上映会の実現に当たって、南風原町の町民の有志が20人ほどかかわりました。かかわった皆さんが町外での上映会でその映画を見て、感動して、是非多くの町民に見てもらいたいと自主的に集まりました。同じ思いを持つ同士がこんなにいるんだなど、大変うれしかったことを思い出します。ちむぐくる館での上映後にアンケート調査も行いましたが、鑑賞された皆さん、ほぼ全員が高い評価で目指すべき学校、地域だと実感されておりました。私の思いも、もっと多くの町民に見てもらいたい。本町が目指すべきインクルーシブな社会の理想に向かって、一人一人ができることは何か、皆で何ができるのかお互いに意見交換をし、確認し行動するきっかけがみんなの学校の上映になると思っております。この映画を見ることで、日ごろ先生たちが抱えている苦勞が保護者だけでなく、地域住民にもしっかりと伝わり、学校を支えたいとの機運にもつながると思ひます。当日は、南城市から瑞慶覧市長もお見えになっておりました。是非本町も首長の皆さん、三役の皆さん、職員の方、議員の方、是非見てもらいたいと思ひます。是非、教育委員会でも上映会を開催してほしいという思いで今回も取り上げましたが、実現はいかがでしょうか。

○議長 宮城清政君 学校教育課長。

○学校教育課長 野原 学君 先ほども答弁いたしましたとおり、学校の意見なども聞きながら、教育委員会とともに考えていきたいと思ひます。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ありがとうございます。是非実現に向かって進めていっていただけたらと思ひます。次に進みます。

少人数の件です。この少人数の効果について、答弁でもいいことばかりが結構ありまして、是非向かってほしいなという思いがします。本町で実現するために何が必要かということ、この中で一応実現しているという回答でしたが、私がこの質問のきっかけになったのは、先日の中城村教育委員会が15人の少人数学級を実現するとマスコミ報道があった

3月26日（第7号）一般質問

ことからです。記事の内容から、学校主導というより、教育委員会主導に受け取れました。本町の見解と今後の方針が少人数学級に向かうのかどうかということでの質問でしたけれども、35人と少人数学級を編成しているという、この少人数学級の定義というんですか、何かちょっと違いがあるように思うんですが、どうでしょうか。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 学級編成においては、文部科学省が定めております、先ほど答弁しました、小学1年生35名、それ以外は40名ということが規準となっております。その規準を下回った学級を少人数学級編成と認識しております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 それでは、今の少人数学級の編成でこの効果が得られていて、しばらく予算の都合もあると思うんですが、そのままいくという考えなのか、もっと減らしてもいきたいという思いなのか、その辺を教えてください。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 教員については、国の補助を受けて県が支払っております。それに基づいて、国規準であれば、先ほど言った学級編成になりますが、県の独自の予算で少人数学級が今現在できているところであります。洋文議員がおっしゃるとおり、中城はさらに独自の村の財源でさらなる少人数学級をやっておりますが、南風原町では、現在も県の予算の範囲内でできている少人数学級を続けてまいりたいと考えております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 その規準の中では、中城村教育委員会の狙いの1つに教員の負担軽減の効果も期待できるとありました。まさに少人数であれば、みんなの学校のような、担任の先生が目が行き届いて、自尊心を損なうことなく自己肯定感を育て、児童生徒同士がお互いを支え合い、尊敬し合い、いじめや差別の原因が解消できて、教師が評価をつけるためにも費やす時間も減り、その結果、教師の負担軽減につながるのではないかと、先ほど答弁にありましたように多くの利点があると思います。是非、文科省の意向を踏まえてとか、近隣自治体の動向を踏まえてとかという、そういう他人任せみたいな考え方よりも、是非本町としてどういう子供たちを育てていくのか、その課題に対して、独自のシステムの必要性があるんじゃないかと思えます。独自性、オリジナル性というか、創意工夫することですね。少ない財源でも何とかそういう理想に向かって進んでいただけたらと思っております。

続きまして、4つの児童館の利用拡充の計画についてです。以前の答弁では、調理設備など整備して夜まで利用可能にする方針だったと思うが、次年度から実施するかについてですが、平成30年度に調査を終えて、平成31年度での実施というのは、前回の奈津江議員のほうでも答弁がありました。県内で児童館を使用して、夜まで子供の支援をしているところは幾つあるのか、そこではどのような支援を行っているか教えてください。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 調査のほうは平成29年度で終えておりますが、その中で近隣でいえば、お隣の豊見城市真嘉部児童センターや伊良波児童館、あるいは浦添市の森の子児童センター、このあたりが児童館、児童センターを使って夜の支援までつなげていますが、この3カ所とも学習支援、食事の提供、そして生活支援、さらにキャリア形成、キャリア支援ですか、この4点をトータルで行っております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ありがとうございます。夜の居場所となると調理も必要になると前回の答弁でもありました。それはどうなるんでしょうか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 今の事例で申し上げました3カ所とも、大型の児童センターと呼ばれるところなんです。そこは既設の調理室がありますが、本町のほうは小型の児童館になりますので調理器具がございません。現在、県のほうで進めております子供の貧困対策事業の中で、どうにか調理器具等が購入できないかということで担当課長のほうにも相談しているところでございます。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 その整備を行って夜の活用が始まっていくのかということでしょうけれども、これは町がどこかに指定管理の方法とかも考えていらっしゃるんでしょうか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 先ほどの3カ所ですね、豊見城市に関しましては市の社会福

3月26日（第7号）一般質問

祉協議会のほうに指定管理をしておりますし、浦添市のほうはまちづくりNPO団体のほうに指定管理をしております。本町としましても指定管理のほうで検討していきたいと考えているところです。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 わかりました。ところで、夜の居場所への児童館の利用について、ウェブ検索してみたところ、現在、厚生労働省では児童館のガイドラインの見直しを行っているとのことでした。中身は結構変わるのでしょうか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 現在、厚労省のほうの委員会で検討が行われていますが、ちょうど3月12日にたたき台が出ました。ウェブのほうでも公開されていますが、ざっと見たところ、児童厚生員に求められる資質として、ソーシャルワークの技術、これが明記されているというか、至る所にソーシャルワークの技術が必要な児童厚生員の資質が求められているところがあります。あとは子育て支援、そのあたりの記述が拡充されているように、たたき台を読んだところ確認できました。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 今の児童館での支援員では対応できなくなるおそれがあるのか、どのように対応していくのか教えてもらえますか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 実際、児童厚生員はこれまで児童館は遊びを通して子供たちの健全育成を図るところで、そういう研修を積んできているところがございます。ただ、昨今はこういうニーズも、先ほど申し上げたニーズもございますので、ソーシャルワークの研修もふえてはきています。それを踏まえまして、平成30年度4月からは、その研修のほうも踏まえていきたいと考えています。現在、3人の児童厚生員体制で4館12名いますので、その12名の資質向上も図っていきたいと考えています。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 夜の居場所ができるとなると、その子だけじゃなくて、例えば一緒に友達が来たり、想定以上に集まってきたり、それが元気ROOMの方の話だと町外からも来ている場合もあるという話があって、もしかしたらそういう状況も生まれてくるのかなど。想定外に新たな課題も出てくることも考えられるのではないかと思います。そういうのは調査でもわかっているのかお願いします。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 確かに浦添でも豊見城でも夜の支援をすると、いろんなケースがあることがわかりました。ただ、今ニーズとしましては、町の主任児童委員の方々が中学3年生を対象に学習支援をするなどのニーズがあって、そのあたりで児童館を使いたいという話もございますので、まずはそのあたりから、児童館、夜の使用を始めてみるのも手かなという感じはしています。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ありがとうございます。先日の赤嶺奈津江議員への答弁からも不登校の子も増加傾向という課題も見えてきていることから、夜の居場所への対応はデリケートな部分も多いだろうし、職員の技術力が大変重要だと感じます。是非すばらしい人材に恵まれるよう期待しています。次に行きます。

(2) 現在、字自治会から公民館等を使用したいという要望は届いていないという答弁がありました。ちょっと意外というか、私らのイメージとしては、私だけかもしれませんが、その前に町社協で事業もあると。そのこども課との事業の違いは何かありますか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 社協が実施している事業と我々の事業でいうと、子供の孤立と貧困対策のほうで説明させていただきますが、南風原町がやっているのは元気ROOMが中心になって、居場所として展開しているところは主に継続的に、専門的なスタッフがケアしなければいけない事業として、土日も含め、365日対応している。そういう対応が必要な子供を支援しているところがございますが、社協の事業は、目的のほう、要綱のほう、今あるんですが、目的はちょっと違っていて、住民相互がつながり合い、ともに支え合い、助け合うことで、子供を初めとした生活混乱世帯を地域で見守り、育み、地域ぐるみで推進すること、これが目的でやっていますので、いわゆる社会関係資本の構築も含めた事業展開、我々が町で責任を持ってやっているのは、本当に支援が必要な子供たちをしっかりと支援していくというすみ分けになっております。

3月26日（第7号）一般質問

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。
○4番 大宜見洋文君 町社協の補助金が何年間続く事業なのか、もしこの事業の補助がなくなると、やめてしまったりすることも出てくるのかなど。その点と、町の社協の補助を使わずに子供の支援を行っているところがもしあれば教えてください。

○議長 宮城清政君 こども課長。
○こども課長 前城 充君 社協の実施要綱によりますと、第3条のほうに事業の実施期間というのがございまして、実施期間を平成28年度から3年間に限り実施するとあります。ただし、最終年度、いわゆる平成30年度です。最終年度に事業継続の必要性と財源の有無などを踏まえ、期間を延長することができるということが書かれていますので、平成30年度で現在行われている事業、これの再検討を行ってどうするかとかの議論が始まるということでもあります。いわゆる社協の補助を受けずにやっているところ、今、把握しているのが兼本ハイツが去年の夏休み、地域の退職教員を活用して夏休みの宿題のフォローを行ったというのが入っていますし、宮平では五、六年前からですか、字の子ども会が中心になって夏休みに宿題の支援を行っているということもありますので、こういうように自主的にやっているところもあるということです。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。
○4番 大宜見洋文君 補助金があるからやるとかではないですよ、この事業は。そういう人を育てるために事業に補助金が投入されていくと思うんですけども、平成30年度で終わってしまう、これが終わったからじゃあやれよということにならないように、是非こうやって使わなくてもやっていけるという地域もあるということですので、どういう持っていき方になるのかちょっとわかりませんが、是非継続してやってもらうようにしてもらいたいとおみます。それと、先ほどの最初の答弁で、区や自治会から、自治公民館を活用したいという要望がないと、届いていないということでしたけれども、これは私だけなのか、イメージはもっと来ているんじゃないかと思ったんですが、この辺は社協のほうには届いているんでしょうか。

○議長 宮城清政君 こども課長。
○こども課長 前城 充君 現在、字の公民館は字の所有でございまして、字の公民館を使いたいという方々がいらっしゃるんですけども、字との話し合いをしている状況ではないかと思えます。我々のほうにも、社協のほうにも字を使ってという活動は直接は来ていない。逆に児童館は活用したいという話は町のほうに来ております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。
○4番 大宜見洋文君 わかりました。是非児童館のほう、ニーズがあるのであれば受け入れて、そういう居場所にしていただけたらいいかなと思います。

次の質問で、本町として子ども元気ROOMでの支援と児童館や自治公民館との関係性ですね、どのように考えていくか教えてください。

○議長 宮城清政君 こども課長。
○こども課長 前城 充君 先ほど説明しました元気ROOMのご支援の様子からして、専門的にやって、継続的にやっているんですが、中には支援がもう大体落ち着いて、次のステップに行けそうだなという子供たちもいるわけですが、しかし、次のステップがすぐ学校とかとなると、ハードルが高い子が出てきたりします。そういうときに中間的な組織として、居場所として児童館や字とかという空間、居場所が活用できたらいいなという話を元気ROOMのスタッフから聞いているので、そのような活用が可能かと考えています。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。
○4番 大宜見洋文君 わかりました。平成31年度の児童館の整備までに、是非今でも可能な連携での支援体制を整えてもらいたいと要望して、この質問を終わります。

続きまして、4番、1年前の一般質問でコミュニティーソーシャルワーカーのアウトリーチで発見され支援が始まり、相談件数が1,000件に上ったというときに、ちょっと驚いて一般質問をしたことを覚えています。1と2、再質問に関連していますので、まず相談件数は微増、2年間しか出ていませんけれども、増加傾向と見ていいのでしょうか。

○議長 宮城清政君 こども課長。
○こども課長 前城 充君 確かに増加傾向でございまして。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。
○4番 大宜見洋文君 支援を受ける対象の方々は種別ではどのように分けられるんでしょうか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

3月26日（第7号）一般質問

○こども課長 前城 充君 対象者は、約65%が障害者で5,742件。次に生活困窮者が14%で1,230件、高齢者が同様に約14%で1,190件となっております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 障害者が圧倒的に多いということがわかりました。この点は、次の質問6にも関連しそうですが、まずひとまず置いておいて、その中で金銭管理を必要とするのはどのような方々でしょうか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 その前に、先ほどの補足で説明ですが、さっきの延べ件数、実際としましては、障害世帯としては75世帯で、障害児が43世帯、数字としては件数は少ないんですが、延べの件数になりますので、相談はその回数合計という形になります。あと今相談がありました、金銭を必要とする方々、その方々は3つに分けられまして、精神疾患の方、高齢者、知的障害の方、この3パターンで全体の80%の相談を受けている形になります。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 その方々への金銭管理を支援することで、こういった効果が得られていますか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 先ほどお話ししました相談者の約半数が生活保護の受給者でございます。生活に関しては保障はされているんですが、お金の管理ができない部分がありまして、一気にお金を使い果たして、二、三日後にはもうなくなっているという方々がほとんどで、放っておくとサラ金で借りたりして、また生活が苦しくなってくるので、そういう方々の金銭をお預かりして管理するというのがとても重要な仕事ですが、その中で具体的にどんな事例があるかということ、医療費の滞納が50万円あった方が計画的に返済しまして、完納している。あるいは家賃滞納をしていた方が分割で払うことができ、家から出されるのを免れたということをお協会のほうから事例として聞いております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 とても大切な支援事業だということがわかりましたが、それではこの支援をする上で現在の課題はありますか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 先ほど支援件数の数字、毎年伸びているということで、大体4人から5人ぐらいふえ続けているのが数字から現状で出ています。この支援対象者なんですが、1回支援を始めると一生続くのが現状であります。今、29人の対応ですが、この支援の対象者がどんどんふえていくと、担当の方の支援の能力を超えてしまって、支援者を支援できなくなってくる状態が起こる可能性があるというのが課題になっております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 一生続くというのは、訓練もできないという、強制もできないというか、そういうことなんですか。それと担当職員は何名いらっしゃいますか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 精神疾患とか、痴呆が入っている方とか、認知も含めて管理ができない状態が続いているので、ここが続く。いわゆるもとに戻らない、訓練とか研修とか、それで治るような方々ではなくて、ですから後見制度とかも絡めていかないといけないような事業になっております。大体1人の担当が職務を担っているんですが、大体、今全職務時間の95%がこの仕事に追われている状況だと聞いております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 1人でやっているとなると、この人が休んだりすると大変な状況ですね。毎年、先ほど言っているように四、五名ずつふえていくとなると、今の対応では限界だと、そういう課題にはどうしたらいいのか、解決策は考えているのでしょうか。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 この金銭管理につきましては、やはりどの市町村でも課題として上がっています。今、この県社協のほうで金銭管理につきましては、基幹的事業という名前のものでありまして、基幹的というのは、大きな市が1つ機関になって南風原とか、ほかの町が一緒になって金銭管理の業務を行うのが今の形態であるんですが、これが平成31年度から基幹事業は廃止になって、市町村単独の補助事業としておりてくるというのが今情報として入っていて、これを県社協のほうとどのような補助形態になるのか詰めている段階でございます。それともう一つは、先ほどちょっと触れたんですが、成年後見制度の事業というのが、厚労省の直接の事業がありまして、これをセットにしてどうか

3月26日（第7号）一般質問

この事業のフォローができないか検討しているところでございます。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 南風原町ではこれからだということですがけれども、同様の課題で既に対応している自治体は県内にあるのか教えてください。

○議長 宮城清政君 こども課長。

○こども課長 前城 充君 2週間前に県社協に基幹事業の相談へ行ったときに、県社協のほうから後見制度の事業を使って取り組んでいるところとして、うるま市と北中城村を紹介されました。北中城村のほうには先週行って、この事業のポイントをお伺いしてきたところです。それを踏まえまして、南風原町でも展開ができないか検討していきたいということで、今どこがやっているかという、情報が入っているのはうるま市と北中城村となっております。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 是非、この先進事例、うるま市、北中城村を参考に対応が後手に回らないようにしっかり支援が行き届くよう要望してこの質問を終わります。

続いて、5のほうに移りますが、町民の健康維持へのインセンティブ施策はあるかという件ですが、この質問を考えたのは、昨年12月18日の日経MJ新聞の記事にイオンが今春から健康増進に取り組む、従業員17万人を対象に健康ポイントを付与する制度を始めるとありましたので、今回の質問に取り上げましたが、新年度の国保特別会計の予算でも実施すると、そういう答弁もありましたので、再質問は1点だけにします。せっかく実施するのであれば、(2)と連動しますけれども、本町の商工会や各種社会団体を巻き込んで、是非運動して事業実施してほしいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長 宮城清政君 国保年金課長。

○国保年金課長 町田美貴さん 答えいたします。今回は、そういったインセンティブを計画しておりましたが、広く町民の健康を増進していくことは、国保も、国保というよりは、健康を増進する担当課、それから保健師、栄養士がいるところと連携をしまして、広く何か捉えることができないかというのは、これから検討してまいります。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ありがとうございます。イオンのカードを使うといえば、教育委員会でもありましたよね。もしね、こういう連携もあるので、そういうところとつなぐれば、イオンのほうも商工会の会員でもありますし、新たに事業所、各町内の事業所とも連携できたら面白いなという思いから質問しました。やはり安易に向こうから提携依頼が来たからということに乗っかるという考えよりも、南風原町独自の発想とか、例えば今であればアジアのダイナミズムを取り組む視野も入れて、台湾の企業やシンガポールの企業とかとの連携も調査するとか、町の商工会にそういう調査委託をするとかでも面白いと思います。是非、そういうほかの自治体にも発想とかも今後必要ではないかと述べて、この質問を終わります。

続きまして6番目、今、農福連携を活用した事業の実施は現在確認できていない。平成30年3月2日の農福連携対策の公募要項説明会に福祉事業所が参加していたと。これから先には進めていないのか、何か進めない課題があったのか、この辺はわかりますか。

○議長 宮城清政君 産業振興課長。

○産業振興課長 金城郡浩君 ご質問の趣旨の進めないというところですが、これは進めないの、窓口が私どもの市町村ではないので、こちらのほうでは把握できていないという意味であります。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 つまり、こういう参加はしていたよというのはわかっていると。できれば町内でも広げていってもらいたいという思いがあったものですから、そういうことが進めば、障害者の方の雇用につながったり、時給のアップにつながったりという事例は全国でも出てきているんです。そういうところの視点も見ていただいて、町内でもそういう事業を展開してもらいたいと。そこには南風原町としてはかかわる意思がないと受け取っていいのでしょうか。

○議長 宮城清政君 産業振興課長。

○産業振興課長 金城郡浩君 先ほど答弁にもありましたように、てるしのワークセンターが参加していたというのは我々のほうでも、担当というか、たまたま見かけたというレベルでして、実際直接、これは総合事務局のほうに申請になります。南風原町が農福連携というのは趣旨としても非常に素晴らしいので、是非そういうことがあれば進めていき

3月26日（第7号）一般質問

ということではあるんですけども、これが申請されて、受理されて、物が動き出すということがなければ、我々のほうとしてもそのバックアップをするということがないわけですし、進めないということではありません。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ありがとうございます。2年前からの一般質問でも取り上げているんですが、私の調査でも自然栽培での農作業が、作業工程がとてもシンプルで、肥料も農薬散布も必要ない。雑草取りや収穫などの単純作業が主であるために、障害を抱える人々にとって適しているころ、農家も人手不足でお互いにウイン・ウインであること、さらに収穫した作物がアトピーや大病を患っている方々にとっても非常に貴重であるということ。またヨーロッパや米国では高所得者層が値段が高くても惜しまず購入するほど付加価値が高く、日本国内、沖縄でもそういう動きが広がってきている状況、本土では自然栽培の農福連携で成功している作業所で働く障害者の作業工賃がかなり上がってきて、自立支援につながっている成果も聞きました。そういう状況からも質問を何度も取り上げてきています。先ほど後見制度で進んでいる北中城村は、こちらでも既に自然栽培団体と北中城村との連携が始まっているとの報道もありました。県内でもトップクラスの自然栽培の技術を持っている人材が本町にいます。有機農法で一所懸命販路拡大している方もいます。是非町内のそういう人材もいらっしゃいますので、そういう方々を是非広めて、そういうところにも視察にもかなり来ていますので、これは観光にもつながっていくんじゃないかなと思っています。是非そういうことを今後も続けてもらいたいと思って、最後、経済建設部長のほうにも一言答弁をお願いしてもよろしいでしょうか。

○議長 宮城清政君 経済建設部長。

○経済建設部長 金城敬宝君 最後になるかどうかわかりませんが、自然栽培ですけども、町内の方がこれの非常にトップクラスというか、やっている方がいらっしゃるというのは聞いたことはございます。そして若い青年が今から自然栽培をやろうという情報も入ってはおります。ただ、これが一般的に普及が図れるかというのはまだまだ調査も必要だろうと感じではいます。

○議長 宮城清政君 4番 大宜見洋文議員。

○4番 大宜見洋文君 ありがとうございます。津嘉山のほうでも若手が始めていますので、是非この辺も研修してもらって、今後、広げていけるかどうか確かめてもらいたいと思います。以上で質問を終わります。